



Title	日米関係（沖縄返還）14(44・5・23田中大使・グリーン次官補会談 外務省外交史料館レファレンス番号：H260159)
Author(s)	-
Citation	平成26年度外交記録公開(1) 公開日：平成26年7月24日 外務省外交史料館管理番号：2014-2730 CD・DVD番号：H26-003
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43789
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

44
29
田中大使
グリン
次官補
会談

特

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政外外官
務務房
次次
臣官官審審長
儀書文会管給
総入電厚計

参調
参領旅移

北東経
中東洋
西

近ア長経
次総経国万

参領統
参政技二
国一理

参条協規
参政経科

軍社専
参道内外

一二

総番号(TA) 22197
69年 5月23日 時25分 米 可 菅 菅
69年 5月24日 時35分 本 菅 菅 菅

外務大臣殿 下田 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ返かん問題

第1591号 特秘 至急

23日タナカ大使は国務省グリーン次官補を往訪したが会談の概要次のとおりである。

1. 当方よりスナイダーに対すると同様の趣旨を述べたのに対し、先方は極東の安全保障の問題につき自由アジア諸国歴訪の印象を述べ、各国の指導者は共産主義のきょういに対しいかに対処するかにふ心している。北せんが現在のところ韓国に対する全面攻撃に出ると思わないが、その動向はたんげいすべからざるものがある。タイ、ラオス、ビルマでは現に共産ゲリラが起つており、かれらは中共で訓練されているのみならず、中共人がこれらの国のへん境地区に出入しつつあり、中共の南方への侵とうは歴然たるものがある。これらの事例に徴しても、オキナワ返かん交渉に関連し抑止力の低下と日米関係に間げきがあるかの如き印象を与えることは避けなければならないと強調した。

2. 当方より、オキナワ問題は日米間に残されたゆ一のM

特

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

AJOR POLITICAL ISSUEであり、速やかに解決を計る要がある。日本側はすでに戦闘作戦行動のための基地使用については討議の用意ありとの態度を示しているのであるから、これを交渉の基礎とすべきであると考えると述べるとともに、核兵器についての日本国内の政治的ふん囲気を説明した。

これに対し先方は日本側の事情につき種々質問の後、北せんの韓国に対するきょういと台湾に対する中共のきょういを比かくしていかに見るかと質問したので当方より、極東の軍事情勢については何れ外務大臣来訪の際日本側の見解が述べられることとなるが、私見としては、アジア大陸部の国と島国との間には防衛上の難易に自ら差異があると考えると述べおいた。

3. グリーンは着任後ベトナム問題にぼうさつされている由にて、事前協議条項の問題等未だ十分べん強していないとの印象を受けたが、極東軍事情勢について述べたところは来るべき貴大臣の国務長官との会談における米側の立場を示さすものと思考する。

(3)